

理念

観音さまの大慈悲のみこころにそって、
思いやりの精神のもとにあたためた医療を提供します。



新型コロナウイルス感染症の流行時における小児科の診療について

小児科部長 田村 英一郎

昨年より続くコロナ禍において、皆様大変ご苦労が絶えないこととお察しいたします。

当院では、新型コロナウイルス感染を疑う患者様の診療に際し、諸々の感染対策を行っております。小児科でも、当科独自の対策を行っているため、以下に述べさせていただきたいと思っております。

① 発熱のあるお子様も、通常の診療時間帯のご案内

他の病院、クリニック等では、発熱の患者様について時間帯を分けて診察されることも多くありますが、病院に行ったのに熱で受診できず、一旦帰らなくてはならないという事例をよく聞かれます。当科では、なるべく来院された患者様には、いらっしゃった時点で医療の提供ができればと考えております。

そのため、通常診療中に、熱のある患者様は、別室対応で診療を行っております。

② 付き添いのご家族様にも体温測定を実施

小児の新型コロナウイルス感染の約7割程度が、家族内感染だといわれております。そのため、玄関での体温測定に加えて小児科外来でも、再度お子様とご家族の方に体温計にて検温させていただいております。

お子様だけでなく、付き添いでいらっしゃるご家族の方も体調を崩されている場合は、新型コロナウイルスに罹患している可能性が否定できないため、ご家族の体調については、必ず申告していただきたく存じます。

③ 病院外の通路を経由して小児科外来へ 内科外来との分離診察

小児科に来院される患者様は、新型コロナウイルス様の症状で来院されることが多く、院内に入ると他の外来患者様やスタッフの方と接触する可能性があります。また、患者様のご家族の方の中には、病院での不特定多数の方と接触することを恐れて、受診を控える方も多くいらっしゃいます。

そこで、なるべく院内での接触を避けるための工夫として、病院外から小児科外来へ受診する経路をつくりました。このことにより、院内を通らず小児科外来に受診することができています。また、隣接する内科外来との間に仕切り板を設けるなど、院内の方々との接触を最小限におさえるように努めています。

以上が当科での追加の対応になります。感染対策には十分配慮していますが、これでも感染については完璧に防止するという事は難しく、来院されるお子様やご家族様にも感染対策のご協力は欠かせません。以下の点についてご留意いただけたらと存じます。

- ★ 発熱で来院される際は、事前に病院にご連絡をお願いいたします。
- ★ ご家族の方も体調がすぐれない場合は申し出てください。
- ★ 付き添いの方はなるべく最少人数でいらっしゃることをおすすめいたします。
- ★ 当院では感染対策を行っていますが、万全に行うことは難しいため、手指消毒やマスク着用、距離を保つなど、ご家族の方々にも感染予防を行った上で受診することをお願いいたします。今後ともよろしくご協力いたします。

最近、関節リウマチのスクリーニング検査として用いられるリウマトイド因子(RF)を、健康診断や人間ドックのオプションとして検査される方が増えてきています。結果が陰性であれば良いのですが、陽性の場合にはどのように考えたら良いのでしょうか？

まず、RFは関節リウマチ分類基準の1項目に含まれており、関節リウマチ患者の約80%で陽性になる検査と言われています。逆に言えば、RFが陰性であったとしても「関節リウマチでない」とは言い切れません。関節リウマチ患者の約20%はRF陰性なのです。それでは、関節リウマチ患者の約80%で陽性なのだから、症状が無くてもRF陽性ならば関節リウマチに罹患しているということでしょうか？それは違います。RFは健常者の数%で陽性になると言われています。また、関節リウマチ以外の疾患(膠原病・慢性肝疾患・慢性感染症等)でも陽性となりやすく、さらには高齢であるだけで陽性となる可能性が高まるとされています。つまり、RF陽性だからといってその方が関節リウマチに罹患しているわけではありません。また、RF陽性の方が将来的に関節リウマチを発症する可能性は、ほんの数%程度であるという報告もなされています。RF陽性であってもそれだけで過度の心配をする必要はないのです。

しかし、大事なのは「症状がない方に限る」という点です。関節リウマチの診断における重要なポイントはRFが陽性であるという点ではなく、その症状と経過です。関節リウマチの主症状である、手指のこわばりや関節痛等の関節症状がある方は、「関節リウマチを罹患している」あるいは「関節リウマチに進展する可能性が高い」ことから、早期に外来受診されることをお勧めします。

リハビリテーション室について

リハビリテーション室

現在、リハビリ室は理学療法士(PT)3名、作業療法士(OT)1名、非常勤の言語聴覚士(ST)2名で運営しております。

内容的には、PT・OTによる運動療法が中心です。様々な疾患により日常生活動作能力が低下された患者様に対して基本動作・歩行練習などのリハビリをおこなっております。整形外科疾患の場合は、骨折などで硬くなった関節の運動やストレッチ、筋力強化トレーニングがあります。それ以外にも、外来の患者様に対して頸椎や腰椎の牽引療法、赤外線などの温熱療法、電気治療器を用いた低周波療法などの物理療法があります。

STによる入院患者様への嚥下機能訓練も週に1回おこなっております。

リハビリ室は2階の南側に面し、春には窓外にソメイヨシノの花が咲き、ピンク一面の風景を満喫できます。通常の三社祭には町内神輿が御本堂裏に集結し、威勢の良い掛け声が室内に伝わってきます。当院が下町浅草の中心にあることを感じられます。

当院でのリハビリをご希望される場合は、整形外科医や内科医の処方が必要となりますのでご相談ください。

